

21.3 期中間 決算説明会 質疑応答の要旨

※本資料には、説明会開催時点（2020年11月18日）の情報に基づく見通し情報が含まれております。

Q1. 6ページと12ページの営業利益増減要因のグラフについて、各要因の中でのセグメント別の内訳を教えてください。

A1. まず6ページの上期のグラフについては、「生産・売上・代価増減」の悪化49億円のうち、産業機械事業が8割強、素形材・エンジニアリング事業が1割強です。更にその中の内訳としては、産業機械では概ね生産が2割、売上が7割、代価が1割で、素形材は売上がほぼ全額を占めています。「変動費」の改善8億円は、産業機械で8億円強改善、素形材で若干の悪化となりました。産業機械の改善は製品構成によるもので、素形材は製品構成による悪化が原材料・エネルギー市況による改善を上回った形です。

次に12ページの年度のグラフについては、「生産・売上・代価増減」の悪化77億円のうち、産業機械が8割強、素形材が1割強です。その中では、産業機械のうち、概ね生産が2割弱、売上が8割弱、代価は数%程度で、素形材は上期と同様に売上がほぼ全てとなります。「変動費」の改善19億円は、産業機械が8割、素形材は2割であり、前者は製品構成、後者は原材料・エネルギー市況によるものです。「固定費」の改善1億円は、産業機械では経費の節減によって若干の改善、素形材では減価償却費の増加が経費節減を上回り若干の悪化となっています。

Q2. 前回の予想から成形機の受注高・売上高が増加していますが、営業利益の増加も成形機に起因するものだと考えて良いですか。

A2. 営業利益の増加については、成形機の売上・操業の増加に加えて、樹脂製造・加工機械で収益率の高いアフターサービスの比率が高まったこと、その他では採算の悪い製品を見込まずに済むようになったことも要因となっています。

Q3. フィルム・シート製造装置の受注環境について教えてください。

A3. セパレータフィルム用途については、中国・欧州とも投資が上期から下期へずれ込んでいます。また、ナイロン系・ポリエステル系等その他の用途についても同様に、下期へのずれが発生しています。

Q4. 23ページについて、EV車の生産台数が政策ベース予測のような高い水準になった場合、セパレータフィルム用フィルム・シート製造装置の需要規模はどの程度になりますか。また、JSWのシェアが高いことは認識していますが、中国ローカルメーカーの追い上げ等、競争環境にリスクはありますか。

A4. 政策ベース予測の場合の需要規模は、単純計算では年間30-36ラインになります。競争環境については、フィルムメーカーでは淘汰が進み、有力なメーカーは既に数社に絞られていると認識しています。その数社はライン数・価格競争力、電池メーカーの認証なども

高い水準にあります。また、当社の競合先も数社に絞られており、新規参入はほぼないと考えています。なお、それらの競合先では顧客の棲み分けもなされており、業績が特定顧客の動向に依存しているような状況です。

**Q5. 各製品において、アフターサービスがどの程度の割合を占めているのか教えてください。
また、その売上規模をどの程度まで増やしていく予定か教えてください。**

A5. 成形機では1割、樹脂製造・加工では2割、FPD装置では3-4割程度が大まかな比率になります。

それぞれについて、今後5年間で現在の1.5倍程度まで増やしたいと考えています。

以上